

中干し徹底を！出穂は早まる予想！ 穂肥は遅れないよう適期に適量を！

1 6月28日現在の生育診断圃の生育状況

品種	年次	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (枚)	葉色 (SPAD)	残存アンモニア態窒素 (mg/100g乾土)	出穂期
はえぬき 酒田市荻島 5/13移植	本年	46.1	619	9.1	38.8	3.3	
	前年	53.7	671	10.0	41.7	3.6	7/30
	平年	49.0	657	9.4	41.9	2.3	8/2
	平年比	94	94	-0.3	-3.1	+1.0	
つや姫 酒田市漆曽根 5/11移植	本年	53.9	478	9.4	38.8	2.6	
	前年	52.3	551	9.5	42.0	1.3	8/6
	平年	48.6	504	9.1	43.0	1.5	8/9
	平年比	111	95	+0.3	-4.2	+1.1	
雪若丸 酒田市前川 5/8移植	本年	46.3	666	10.4	39.6	2.9	
	前年	45.3	782	9.5	45.8	1.7	8/2
	平年	42.5	723	9.6	46.4	2.5	8/3
	平年比	109	92	+0.8	-6.8	+0.4	

6月28日現在の生育診断圃の生育は上記の通りで、生育は平年並からやや進んでいます。管内全体でも概ね平年並の生育が確保され、6月20日頃から中干しが行われており、縞が見える（葉色がさめてきた）圃場も出てきました。

水田農業研究所の6月28日の調査では、「はえぬき」「雪若丸」で出穂が平年より2～4日早いと予想されています。引き続き作溝・中干しを徹底し、適期に穂肥のできる稲姿にしましょう。

2 中干しは穂肥前まで継続しましょう！

管内では6月20日頃から作溝・中干しが開始されましたが、梅雨入りで断続的な降雨が続いたため、思うように乾いていない圃場も見られます。下記の表や写真を参考に、穂肥前まで中干しを継続して生育調節に努めましょう。

地力・生育状況	中干しの期間・程度
地力：低～並 生育量：並	7～10日間を目安に 小ヒビが入る程度
地力：高 生育量：過多 葉色：極端に濃い	11～15日間を目安に やや強めの中干し (強すぎて上根が切れてしまわないよう注意)



生育が小さい圃場や砂質で乾きやすい土壌の場合、この程度で作溝に水を入水します。

生育が大きい場合、この程度で作溝に水を回して、その後しばらく中干しを継続します。

しっかり中干しを効かせることで、上根の増加、根の活力向上、受光態勢の向上、地耐力の強化が図られ、**高温やフェーンなどの気象変動に耐えられる強い稲体となり、登熟向上につながります。**

中干し終了後、幼穂形成期以降は稲体の水分要求量が高まるため、**出穂するまで間断かんがいを継続しましょう。**今後の水管理を効果的に行うため、作溝がきれいに切れているか確認し、不十分な場合はすぐに手直しを行いましょう。

3 穂肥は適期に適量を【穂肥の目安】

品種	本年の 予想出穂期	葉色		施肥窒素量(N成分 kg/10a)		
		SPAD	葉色板	出穂 30 日前	出穂 25 日前	出穂 20 日前
はえぬき	7/31 頃	35 以下	4.5 以下	1.5~2.0	—	(1.0~1.5)
		36~39.9	4.6~4.9	—	1.5~2.0	—
		40 以上	5.0 以上		1.0~1.5	
つや姫	8/6 頃	39 以下	4.9 未満	1.5(有機N入り)	—	—
雪若丸	7/31 頃	40~44	5.0~5.4	—	1.5	—
ひとめぼれ	7/31 頃	33~37	4.3~4.7	—		1.0~1.5

過剰な施肥は籾数過剰、登熟不良を招くリスクがあります。葉色が濃い圃場では**穂肥の時期は遅らせず、減肥対応または無施用**としましょう。

ケイ酸資材の積極的な施用（KSK28、ケイ酸加里プレミア34等）によって登熟向上を目指しましょう。

4 病虫害防除

病虫害防除所の発生予察情報では、**斑点米カメムシ類の発生量は「やや多い」と予想**されています。雑草での増殖抑制のため、畦畔・農道等の継続的な雑草対策を徹底しましょう。

一斉草刈りデーは 7月20日(土)~22(月)です！



中干しを継続し、穂肥のできる稲姿に仕上げましょう！

- 穂肥時期は、**つや姫は有機質入り肥料で出穂の30日前、雪若丸は出穂の25日前**です。遅れずに穂肥ができるように準備しましょう。
- 葉色の濃いつや姫には、**適期適量の穂肥施用ができません。**茎数が多い・葉色が濃い圃場では、**やや強めの中干し**を行いましょう。

はえぬき 食味向上だより

籾数過剰だと、特に高温年では収量だけでなく、品質・食味の低下につながります。

はえぬきは倒伏しにくい品種ですが、過剰な施肥（追肥）をしていませんか？

食味を落とさないよう、中干しの徹底、適期適量の穂肥を実施しましょう！

